

子どもの地域参加と健康について



独立行政法人建築研究所 樋野 公宏

1. 研究の背景と目的

子どもにとって地域との関わりは、異世代との交流、学習以外の体験といった意味を持つ。子ども時代に地域活動の経験が豊富な大人は、人間関係能力、共生感などが高いという調査結果もある。子どもの地域への愛着が育まれ、将来のまちづくりにつながるという意義もある。しかし、都市化や家族の変容、ライフスタイルの変化により、子どもが地域活動に参加する機会は減少している。こうした状況に対し、文科省では地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るため「学校支援地域本部事業」を始めるなどして、子どもと地域の関係性の回復を図っている。

こうした背景において、子どもの地域活動への参加を促進するためには、参加要因を明らかにすることと、新たな視点からも参加の意義を訴えていくことが重要だと考えられる。本研究では、参加要因として地域の安全環境、参加の意義として子どもの健康に着目する。地域の住環境で安全に着目するのは、子育て環境として防犯性が極めて重視されていること、近年急増する防犯ボランティアに見守られる子どもたちにも、地域への信頼や愛着が育まれると期待されることが理由である。健康に着目するのは、WHOが「健康とは、身体的、精神的、社会的にすべて良好な状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない」と社会的健康に言及する通り、地域活動に対する積極性は健康に直結すると考えられるからである。

また、地域の安全環境と子どもの健康との間にも関係があると考えられる。子どもの安全に対する保護者の不安は、子どもの移動自由性の制約という形で表れ、運動不足による子どもの健康への影響も懸念される。こども環境学会の提言でも、子どもの安全と健康、そして子どもを取り巻く住環境は切り離すことのできない問題として考えられている。

以上の背景及び問題意識から、国土交通省「健康維持増進住宅研究委員会」は、えひめ子どもチャレンジ支援機構の協力を得て、松山市久米地区の子ども、保護者に対するアンケート調査を実施した。調査概要は表1の通りである。保護者の意識・行動および地域の安全環境に着目しつつ、子どもの地域活動の参加要因と、子どもの健康関連要因の構造を明らかにすることを目的とする。

表1 アンケート調査概要

時期	2010年11月下旬
対象地区	松山市久米地区
対象	・久米・北久米・福音・窪田小学校の6年生全員(444名)、久米中学校の2年生全員(292名) ・上記の保護者計736名
配布・回収	学校を通じて配布。小学生は学校で回答、中学生、保護者は自宅で回答。子・保護者分をセットにして学校で回収。
回収数(率)	638(86.7%)※親子のマッチングができた数

2. 調査項目

1) 健康

子どもの身体的、精神的健康については、既存研究を参考に、体力、睡眠、ストレス、学校満足度、食事バランス、生活満足度、主観的健康感の7項目について4件法で質問した。集計結果を図1に示す。生活満足度、主観的健康感は肯定的な回答が9割近く達する一方、体力、ストレスについては6割を下回っており現代の子どもの課題と言える。

社会的健康について、本研究では「地域活動への参加度」および「地域への愛着」の2項目で社会的健康が構成されると操作的に定義した。「地域活動への参加度」は、久米地区で行われている4つの地域活動「公園清掃活動（市民大清掃）」「地区夏祭り・盆踊り」「地方祭（みこし、獅子舞、ちょうちん行列）」「町内運動会」のなかで、参加したことのある活動数をもとに得点化（1～5点）した。地域への愛着は、「自分のまちが好きか」を4件法で質問し、上と同様に得点化した。先行研究で、地域への愛着とソーシャルキャピタル（人間関係資本）との関係性が示されていることから、地域への愛着は個人と社会をつなぐ役割を有すると考えたものである。

2) 地域の安全環境

地域の安全環境として歩行時安全性、防犯対策、治安、公共空間のバリアフリーの4項目について0～100点まで等間隔の6件法で質問し、それぞれ1点～6点到得点化した。集計結果を図2に示す。いずれの項目も約9割が60点以上であり、久米地区における交通安全や防犯に関する活発な取り組みが、子どもたちにも認知されてきていることが伺える。

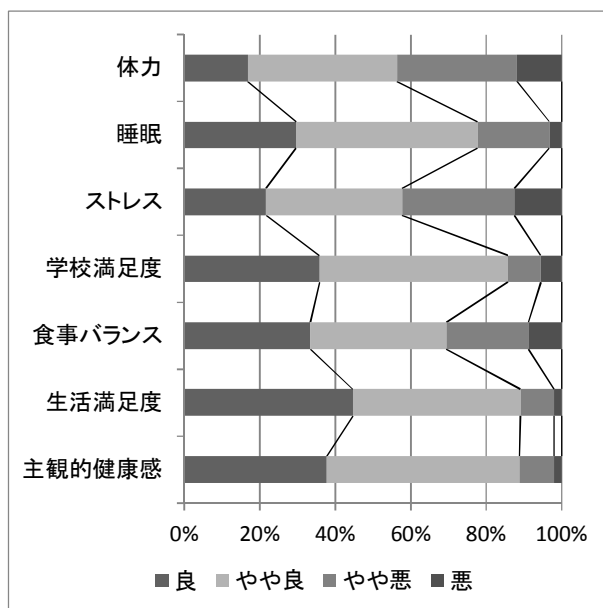


図1 健康の自己評価

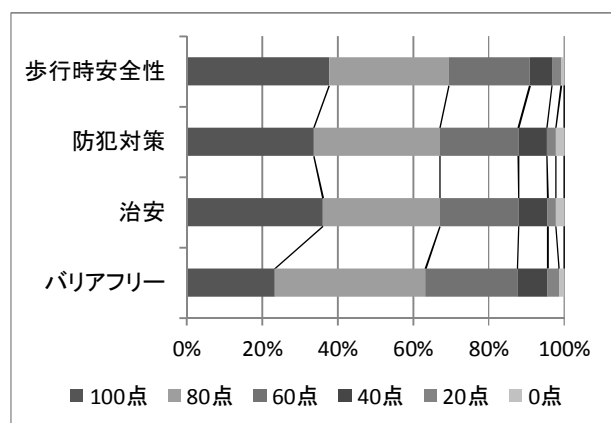


図2 地域の安全環境に対する評価

3. 親の地域活動と子への影響

「地域への愛着」「地域活動への参加度」について質問し、子どもと同様に得点化した。地域活動への参加度は、回答者の約2/3が3つ以上経験しており、子どもと比べて参加経験のある活動数が多い。地域への愛着を感じる割合も約7割と高い。

親子の地域活動数の関係を見ると、図 3 の通り親の活動数が多いほど子の活動数も多く、両者の間には有意な正の相関があった。また親子の地域への愛着の関係を見ると、表 4 の通り親の愛着が高い方が子の愛着も高い傾向が見られた。

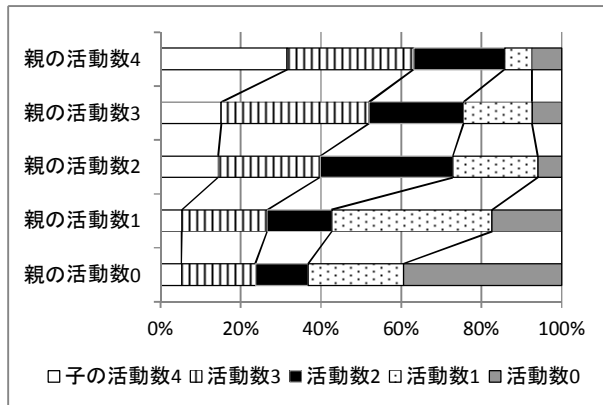


図 3 親子の地域活動数の関係

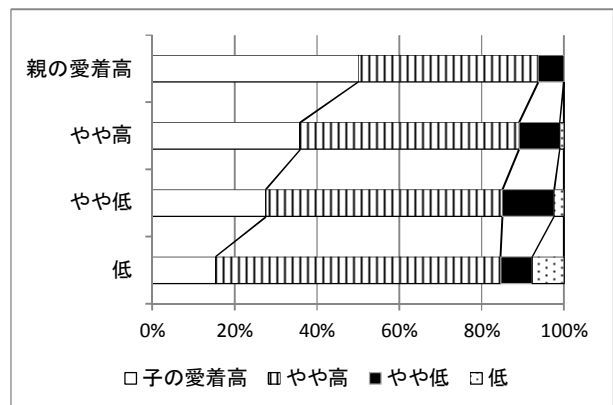


図 4 親子の地域への愛着の関係

4. 子どもの地域活動参加要因構造モデル

1) モデルの構成

子どもの地域活動の参加要因と、子どもの健康関連要因の構造を明らかにするため、共分散構造分析を行った。子どもの地域との関わりは、地域への愛着と地域活動への参加度の 2 つの観測変数で表される。これは WHO の健康の三大要素のうち社会的健康に対応すると言える。身体的健康、精神的健康、地域の安全環境については、関連する変数に対応する潜在変数（楕円で表記）を設けた。なお、小学生と中学生の回答傾向の差を確認するため多母集団同時分析を行うこととした。

2) 結果と解釈

分析の結果を図 5 に示す。図中の矢印は因果の向き、各矢印の数値は因果の強さ（左の数値が小学生、右が中学生）を表す。この結果は以下のように解釈される。

- (ア) 親の地域への愛着は地域活動への参加につながる。子の地域への愛着が参加を規定する度合いは相対的に小さい。
- (イ) 親の参加行動は子の参加行動に大きく影響する。親の地域への愛着が子に与える影響は相対的に小さい。ア、イを合わせて考察すると、子の地域活動への参加を促進させる要因として最も大きいのは、親の参加行動である。
- (ウ) 地域の安全環境は子の地域への愛着に大きく影響する。子どもの安全のための地域の取り組みと、その情報の周知が子どもの地域への愛着に結びつく可能性が強く示唆される。
- (エ) 地域の安全環境は精神的健康に影響する。子どもの安全のための地域の取り組みは、子どもの精神的安定に寄与する可能性が示唆される。地域の安全環境から身体的健康への直接効果はない。
- (オ) 地域への愛着は精神的健康にかなり影響する。地域活動への参加も身体的健康に影響することから、社会的健康が精神的、身体的健康に影響すると考えられる。精神的健康は身体的健康に大きく影響する。

(カ) 小学生の方が親の参加行動の影響を受けやすく、中学生の方が地域への愛着に基づく自らの意思で地域活動に参加しやすい。

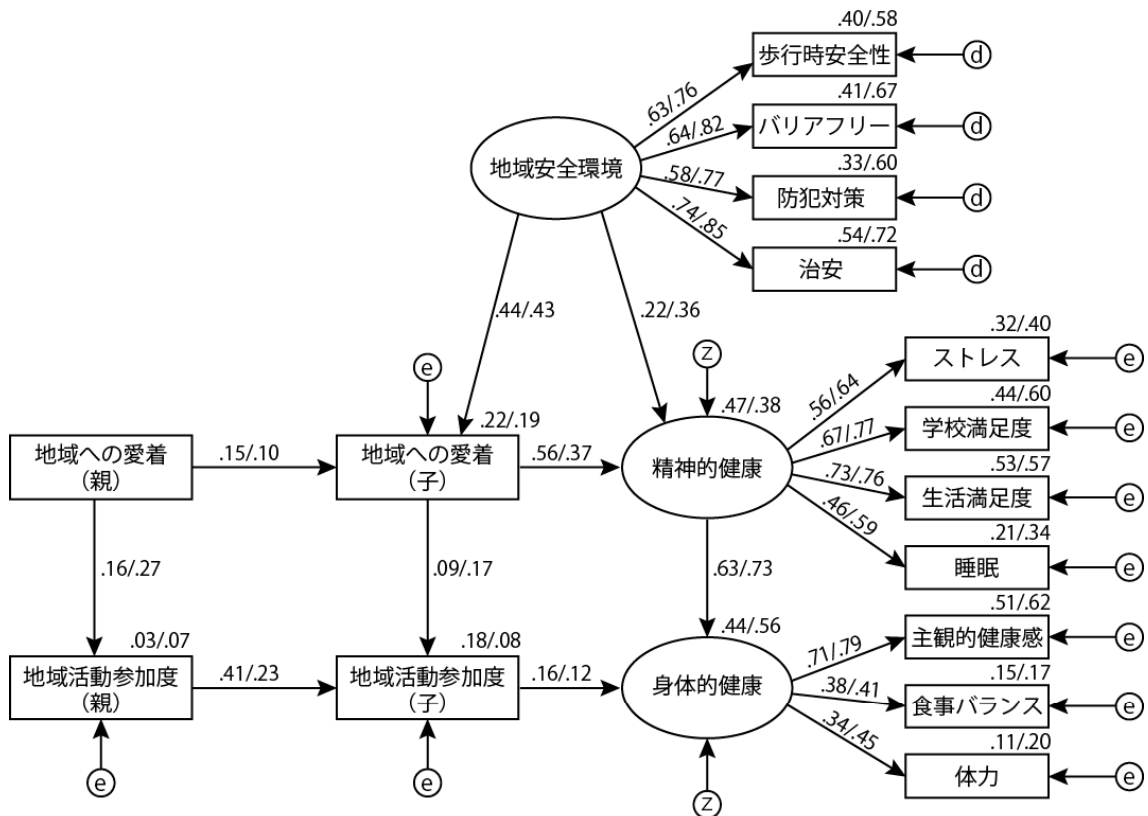


図5 子どもの地域活動参加要因構造モデル（数値は小学生/中学生）

5. 考察

以上、本研究では、地域への愛着、地域活動の参加といった子どもの社会的健康が精神的・身体的健康に好影響を与えること、地域の安全環境が子どもの地域への愛着を育み、地域参加を促進させることの可能性が示唆された。特に健康への好影響については、子どもの地域活動への参加を促進するために、本研究で得られた知見の普及が望まれる。

保護者の立場から子どもの地域活動参加を促進するためには、自身が地域に愛着を持つだけでは十分でなく、自ら活動に参加し、その姿を子に示す実際の行動が最も重要である可能性が示唆された。

一方、地域の立場から子どもの参加を促進するためには、久米地区のように安全な環境づくりの実践により、子どもの地域への愛着などを育むことが一つの方法となる可能性がある。その場合、実践を子どもたちに知ってもらうための周知活動も必要である。また、親の行動を促すために、親子で参加できる地域活動の充実も望まれる。

謝辞

調査にご協力いただいた NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構及び地区内の小中学校の皆さまに感謝申し上げます。